

20260811

5/10「日本の教育の未来を共に創る！」のアーカイブを見て
8/10「未来共育オンラインシェア会」に参加した

ともみんなからのお便り

昨日はありがとうございました。

5月10日のお話を、
のりちゃんが私にアウトプットしてくれたところから、
私自身、この大きな変化の時代を生きる一人の母親として、
「子どもたちの未来に対してどんな責任を持つのか」を
以前より深く考えるようになりました。

私たちは、一律で平均的な教育を受け、
「こうすればうまくいく」というある種の正解を
教わってきた世代だと思います。

でも、もうそれだけでは通用しない時代になっている。
そもそも「正解」というものの自体が、
人間がつくり上げた概念なのかもしれません。

誰かが決めた正解に自分を合わせるのではなく、
私たちが本来持っている感性や感情、
一人ひとりに備わっている素晴らしさを、
そのまま発揮して生きていくことができれば、
もっと多くの人が幸せに生きられるのではないかと感じました。

1番、2番と順位をつけたり、
誰かより優れている・劣っていると比べたり、
「あの人はこれができるのに、私はできない」と劣等感を抱いたり。
私自身も、ずっとそんな世界の中で自分を見てきたように思います。

でも、この5年ほどで、
「私には私にしかできないことがある」
ということにも気づくことができました。

そして、その気づきに大きく影響したのが「環境」です。

どんな人と出会うのか。
どんなことを学ぶのか。
どんな体験をするのか。
そして、挑戦や失敗さえも受け入れてもらえる環境があるのか。

環境によって、
その人がもともと内側に持っている可能性や素晴らしさは、
どんどん輝いていくのだと思います。
昨日お話にあった「内発的動機づけ」も、
きっとここに繋がっているのだと感じました。

「私は、私らしくありたい。」
だから知りたい。だから学びたい。
だから挑戦したい。

そんなところから生まれる学びこそ、
本来の学びなのかもしれません。

子どもに笑顔で、幸せに生きてほしい。
これは、きっと多くの親に共通する願いです。

だからこそ、まずは私自身が幸せに生きること。
私にとっての幸せとは、
ありのままの、どんな自分も受け入れられること。
自分にしかできないことで、自分自身を喜ばせていること。
そして、それが周りの大切な人を喜ばせることにもつながっている
と実感できること。

そのとき人は、
「自分が生きている意味」を感じられるのではないかと考えています。
そして、それ自体が人生をかけた「探究」なのかもしれません。

自分自身に矢印を向け、
志を持って生きようとしているお母さんたちがたくさんいること。

そして、国の中枢にも、本気で教育を変えようと
命をかけて取り組んでいる方々がいること。
その事実を知れたことは、私にとって大きな未来への希望になりました。

「どうせ変わらない」「どうせできない」と思いながら生きるのと、
「必ずできる」「未来には可能性がある」と光を見ながら生きるのとでは、
その先につくられる未来は全く違うと思います。

文科省の方々が本気で取り組んでいること。
教育に熱い想いを持った方々が、それぞれの場所で本気で動いていること。

そして昨日、特に心に残ったのが、
実は大きな影響力を持っているのは「世論」なのだということです。

だとしたら、私たち一人ひとりにもできることがある。
一人の人間として。
そして、一人の母親として。
まず自分自身が、自分らしく幸せに生きること。
そして、子どもたちが「自分には可能性がある」と思える環境をつくっていくこと。
子どもたちの未来を明るく照らしていくことは、

誰かに任せるものではなく、私自身にもできることがある。
昨日のお話を聞いて、その責任と希望を、改めて強く感じました。